

日火?
水金



若年性認知症 チェックシート



このようなサインは、認知症の可能性が 있습니다。



こんな味だった...?

生活の変化

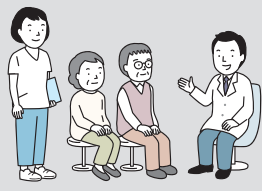
- 財布やカギをどこに置いたか分からなくなる
- お金の計算や漢字の読み方が分からなくなる
- 車の運転で注意されることが多くなった
- 知っているはずの場所で道に迷ってしまう
- 電車やバスで乗る駅や降りる駅が分からない
- 身だしなみに無頓着になる (歯磨きをしなくなったなど)
- 些細なことでイライラしやすい
- 好きだった趣味の活動をしなくなる
- 食べ物の好みが変わった
- 誰にも見えない人や虫がいると訴える



依頼されたっけ...?

職場での変化

- スケジュールを管理できない
- 約束を忘れてしまう、忘れ物が増える
- 職場の仲間や取引先の相手の名前が思い出せない
- 作業に手間取ったり、ミスが目立つようになる
- 段取りが悪くなり、優先順位が分からない
- 複数の作業を同時並行で行えない
- 指示されたことが理解できない
- ことば数が減る、物の名前が出てこない



若年性認知症の検査と診断を受けるには「物忘れ外来」「神経内科」「精神科」等を受診しましょう。



若年性認知症とは

監修：川崎幸クリニック 若年性認知症支援コーディネーター
参考：認知症介護情報ネットワーク (DCnet) > 若年性認知症について

65歳未満で発症した認知症のことをいいます。

平均では50代の男性が多いですが、早ければ20～30代でも発症する病気です。働き盛りの世代で発症するため、ご本人だけでなく、ご家族の生活への影響が大きくなりやすい特徴があります。

体調の変化を感じても認知症とは思わず、我慢したり、そのままにしたりしてしまい、ご本人やご家族も悩みながら原因が分からない状態が続き診断が遅れることもあります。



高齢者の認知症との違い

若年性認知症は、高齢者の認知症と医学的にはほぼ同じですが、いくつかの特徴があります。

- 1) 発症年齢が若い
- 2) 異常に気づくが受診が遅れる
- 3) 初発症状が認知症特有のものでなく、診断しにくい（例：意欲低下など）
- 4) 就労中に発症することが多く、経済的な問題が大きい
- 5) 主介護者が配偶者に集中しやすい
- 6) 親の介護と重なる（複数介護）
- 7) 子供の進学・就職・結婚等に影響しやすい
- 8) 車の運転が中断される

などの問題が顕在化しやすい特徴があります。



生活に伴う不安など、専門職への相談を

診断直後は、ご本人・ご家族も大きな不安を抱くため、病気や治療のこと、生活状況に応じて利用できるサービスや制度など具体的なアドバイスを得られる「若年性認知症支援コーディネーター」に相談することが大切です。



若年性認知症支援コーディネーター



若年性認知症の方のニーズに合った関係機関やサービスの担当者との調整を担います。川崎幸クリニックでは2024年10月より「若年性認知症相談窓口」が設置されました。必要に応じて、医療機関や職場、産業医、地域の当事者団体等と連携し若年性認知症のご本人が“自分らしい生活を継続”できるよう、総合的なコーディネートを行います。医療機関に掛かっていなくても、職場の方からでも相談は可能です。お気軽にご相談ください。※相談料は無料です。

